

散歩は毎日がいいところが足が痛いのでそうはいかない。

近所のおば様たちに挨拶したり庭木、柿の木の新緑の天麩羅がおいしいとか。鳩を沢山飼っている家、20羽以上だろうかグルグルーグルグルーと鳴き声が聞こえる。家並みを過ぎるとゆるやかな坂道が出てくる。いよいよ私の出番だ。車椅子からヨッコラショと降りて登坂にかかる。はじめはやるぞ！という威勢であるが、10メートルくらいで疲れが出てくる。目標はコアジサシが描かれている千葉のマンホールの蓋まで。ここが坂の上。右手が共同墓地ね、数年前に知人もお入りになった。

散歩道 19/4/27 Hidekuro



タンポポの群生



八重桜



チュウリップ



ノースポールとビオラ

散歩は毎日がいいのだけれど足が痛くなり、そうは問屋が卸さない。散歩に行くときはいつもアオちゃん廻りとすることになっている。このアオちゃんは真っ白なのだ。名は体を表さない。アオちゃんはオオムのようにだけどおかめインコだそう。わが家から3軒目の家で外が見えるように障子がいくぶん開けられているので外からでもアオちゃんの様子がみられる。

3日か4日おきに散歩に行くがそのとき事前に口笛を吹く、ホケキョと下手な口笛だけど聞こえるらしく鳥籠から這い出して籠の上で今や遅しとばかり私とかみさんを待ち構える。先に着いた私の口笛よりアオちゃんは上手にやるもんだ。

そのうちかみさんが散歩に必要な車椅子をおして到着すると同時にアオちゃんと自分の名を呼んで挨拶する「アオちゃん」と挨拶を返す、私のときは警戒しているのか反応なしだった。家から50メートルくらいでアオちゃんちに到着するが、すでに足は痛くなっている。

私は足が疲れて車椅子に乗る。アオちゃんとお別れアオちゃんは私が口笛を教えた鶯の鳴き声で呼び止めるようだが、散歩には行かねばならぬ、止めてくれるな、いかねばならぬ、と言うわけでしばらく車椅子のやっかいになる。

おかめインコのオアちゃん 19/5/1 Hidekuro



おかめインコのオアちゃん
令和元年5月1日（元日）

人が一生のうちに居住地をどのくらい変わるだろうか？私の場合はオギヤーと生まれた時群馬県の浅間山の麓、嬬恋村、ここに15年、高校は高崎市に3年、就職して神田に1年、港区、高木町に5年このとき青山学院大学第2部経済学科に学ぶ、千代田区麴町の寮に1年、練馬区の独身寮1年、千駄ヶ谷に2年

嬬恋村に帰って1年、埼玉の志木に3か月、名古屋に7年6か月、東京西国分寺に2年、横浜市もみの木台に5年、千葉市稲毛現在にいたる。と、まあこんなことになってます。思えば本当にあっちこっちとかわったもんだ。だが、この中には天国と地獄は含まれていない。この中で楽しかったのは高校時代かな。1年目は環境の変化が大きく下宿環境になれること。まず賄いつきだからいろいろなものの下着の洗濯は冬は手洗いだから冷たく辛かった、風呂屋にはすぐなれた。大学はやれないといわれ就職を有利にとのことで商業高校に行くことになった。当時の生徒の流行はバンカラが幾分残っていた。例えば、腰に手拭をぶらさげる、高歯の下駄を履くカラコロと学生帽は靴墨を塗る、卵の白身塗る。こうすると帽子は黒光りテカテカのカチカチの古ぼけた貫禄がでる。学校ではこうした風習は校風に合わないというので懲らしめのため一斉にげた箱から問題の高下駄を校庭にうち捨てた。私はスニーカーだったので難を逃れた。ただし、学生帽子に靴墨をぬったことはあるが卵の白身は手にはいらなかった。夏の夕立にあったときに帽子に塗った靴墨が雨に溶けてワイシャツを汚してから止めた。

流浪の民 19/5/12

高崎白衣観音

